

1. 協議会活動方針

会長 小松川 浩
公立千歳科学技術大学

本年は、昨年同様に、「学修者本位の教育」実現に向けて必要な学習環境について協議を進めます。「学修者本位の教育」では、学習者が自らの意思で到達目標を設定し、学びを確認しながら達成をしていくことが求められます。このためには、学習の取組状況を常に自ら振り返り、その学習成果を学習者及び教師双方で可視化・共有していくことが重要となります。さらに、数理データサイエンスや AI、またデジタル×グリーンのような社会や世界の要請に基づく基盤的な学習内容を各大学で実施していくことも必要になっています。これらを実現するには、学習者が主体的に学習を進めるためのオンライン環境の整備、また学習成果を可視化する e ポートフォリオ環境の整備などが重要となります。また、今年の大規模言語モデルの進展に伴い、AI 利活用による学習支援サービスの高度化も期待されます。

本協議会でも、教育 DX における学習データの利活用を意識して、Learning Analytics を通じた学習分析、教学 IR での利活用をテーマに部会を中心に情報の共有を図ります。第一部会では、Moodle を中心として、教育 DX を推進する上での拡張機能について協議を行います。第二部会では、昨年と継続して数理データサイエンスの CBT の整備と、Moodle との LTI 接続による CAT (アダプティブ) の提供を図ります。第三部会は、生成系 AI を中心とした事例の収集に努めます。

2. 加盟組織一覧

会長	小松川 浩 (公立千歳科学技術大学)
代表幹事校	公立千歳科学技術大学
事務局長	望月 雅光 (創価大学)
監査校	岩手県立大学、長岡技術科学大学
渉外	森 祥寛 (金沢大学)
幹事校	岩手県立大学、愛媛大学、大手前大学、金沢大学、熊本大学、 公立千歳科学技術大学、佐賀大学、信州大学、創価大学、帝塚山大学、 長岡技術科学大学、山梨大学

加盟大学 愛知大学、江戸川大学、大阪工業大学、大阪大学、岡山理科大学、尾道市立大学、金沢学院大学、金沢工業大学、畿央大学、九州工業大学、京都情報大学院大学、桜の聖母短期大学、札幌学院大学、札幌大学、湘南工科大学、仁愛女子短期大学、清泉女子大学、中信金融管理學院、電気通信大学、東洋大学、徳島大学、長崎国際大学、長崎大学教育開発機構、名古屋学院大学、日本工業大学、八戸工業大学、北星学園大学、兵庫医科大学、福岡女学院大学、防衛大学校、法政大学、北海道医療大学、三重大学、武蔵野大学、明海大学、桃山学院大学、酪農学園大学、和歌山大学

賛助会員 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸、NPO 法人サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES、株式会社カルク、株式会社デジタル・エデュケーション・サポート、株式会社ナレロー、株式会社ネットラーニング、株式会社メイドインクリニック、公益財団法人日本漢字能力検定協会、こだまりサーチ株式会社、ユニコネクト株式会社

50 音順 加盟大学 50 校 賛助会員 10 社 (2023 年 10 月 31 日現在)

3. 2022 年度 UeLA フォーラム・総会の報告

UeLA 事務局

1) 2022 年度フォーラム

2023 年 3 月 4 日・5 日、「DX による学習成果の可視化がもたらすもの、何ができるか、何が変革できるか」をテーマに、現地、創価大学と Zoom のハイブリッド形式で、フォーラムを開催いたしました。

4 日、午前の部では、第 1・第 2 部会主催による、信州大学の活用事例及び、共通基盤教材の CBT 利用開始と利用方法についての事例報告がありました。

午後の部では、基調講演として、文部科学省高等教育局高等教育政策室 課長補佐 高橋 浩太郎氏による「これからの質保証と学修成果の可視化」について、また特別講演として、法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター長・生命科学部教授 山本 兼由氏による「個別最適な「実践知」の育みを支援する HOSEI Hi-DX」について、Avinton ジャパン株式会社 代表取締役 中瀬 幸子氏による、「予測不可能な時代の企業研修 社会人前期間に期待したい経験と企業連携事例」についてのテーマでご講演いただきました。その後第 3 部会主催による事例報告として、創価大学 小澤 潤氏、熊本大学 喜多 敏博氏にご講演いただきました。

また、5 日には、日本リメディアル教育学会 (JADE) ICT 活用教育部会との共催により、計 10 件の研究発表が行われました。フォーラムには 169 名 (現地 66・Zoom103)の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。なお、フォーラム予稿集および発表資料は、下記のアドレスにて公開しております。

UeLA・JADE 合同フォーラム予稿集

<https://ucla.jp/proceedings/>

2) 2022 年度総会

フォーラム同日（2023 年 3 月 4 日）、2022 年度総会が開催されました。審議事項、報告事項は以下の通りで、全て承認されました。

■ 審議事項

1. 規約の変更について
2. 決算について
3. 予算について
4. 監査校の承認について

■ 報告事項

1. 2023 年度の会長について
2. 2023 年度の事務局長について
3. 2022 年度加盟校・退会校
4. UeLA&JADE 合同フォーラム 2022 について
5. 部会実施報告
6. 共通基盤教材利用状況
7. 2023 年度代表幹事校について

4. 協議会活動報告

■ 2022 年度

開催日			開催方式	
2022 年	5 月	10 日	幹事校ミーティング	Zoom
	7 月	6 日	部会ミーティング	Zoom
	8 月	24 日	幹事校ミーティング	Zoom
	9 月	16 日	事務局ミーティング	Zoom
	10 月	18 日	事務局ミーティング	Zoom
	11 月	7 日	幹事校ミーティング・事務局ミーティング	Zoom
	11 月	2 日	コンテンツ・教材共有部会 ミニ勉強会	Zoom
	12 月	28 日	幹事校ミーティング・事務局ミーティング	Zoom
2023 年	2 月	14 日	システム運用部会 ミニ講習会	Zoom
	2 月	25 日	システム運用部会 入門ワークショップ	Zoom
	3 月	3 日	幹事校ミーティング	※ハイブリッド
	3 月	4・5 日	UeLA&JADE 合同フォーラム 2022	〃
	3 月	4 日	2022 年度総会	〃
	3 月	9 日	システム運用部会 情報交換会	現地

※ハイブリッド（創価大学・Zoom）

■ 2023 年度

開催日	開催方式
2023 年 4 月 24 日 事務局ミーティング	Zoom
5 月 15 日 幹事校ミーティング	Zoom
6 月 16 日 大学 ICT 推進協議会イベント（システム運用部会協力）	現地
7 月 31 日 幹事校ミーティング	Zoom
8 月 7 日 ICT 活用教育事例部会 「ChatGPT 等の AI 対話サービスおよび e ポートフォリ 9 月 15 日 オの利活用に関するアンケート」実施	—
8 月 22 日 JADEICT 活用教育部会&UeLA 第三部会合同セッション	現地
8 月 29 日 システム運用部会イベント教育システム情報学会	現地・Zoom
9 月 29 日 幹事校ミーティング	Zoom
10 月 6 日 事務局会議	Zoom

5. 部会活動報告・活動予定

1) 第一部会 部会長 大西 淑雅（九州工業大学）

本部会では、システムの構築・運用に関するノウハウの共有を図っています。近年の ICT を活用した教育の増加を考慮し、「システム連携」をテーマに、様々なトピックをとりあげて部会活動を行っています。2022 年度には、2 つの部会イベント（ホームページ参照）を開催しました。また、フォーラム併設の部会ワークショップでは、「LTI による LMS の機能拡張」の事例を紹介しました。

今後は、新村先生（副部会長・信州大学）と共に、部会活動を増やす計画です。2023 年度のフォーラム初日（午前中）には、「LMS の持続的な運用・管理」をテーマに、第一部会の事例報告を予定しています。さらに、ゆるい部会ミーティングを「フォーラムの情報交換会」の直前に開催し、より具体的な情報を、対面で交換できる時間も確保しています。ぜひ、部会ミーティング（3 部会とも実施予定・移動可）にもご参加ください。なお、今後の活動予定などの情報は、ホームページをご確認ください。

2022 年度活動報告：

1. ブラウザからプログラミング言語 Python を実行できるサービス「GoogleColab」を用いて、JupyterNotebook を各自試してみる入門ワークショップを開催しました。表計算ソフトウェアでは読み込めないような巨大なデータファイルを読み込み、その統計量を計算・可視化する手順を学ぶことができました。

2. Moodle に実装されている、MoodleAPI のワークショップを開催しました。また、オンラインストレージ NextCloud の API の使い方についても簡単に解説しました。MoodleAPI を利用することで、Moodle 上の情報を取得やユーザ管理などの自動化の事例を紹介することができました。

参加者は 15 名。

2023 年度活動予定

1. LMS の持続的な運用・管理に関する事例紹介（2024 年 2 月 28 日午前中・フォーラム併設）および部会ミーティング「LMS の持続的な運用・管理に関する情報交換会」（2024 年 2 月 28 日夕方・フォーラム情報交換会）
2. ビデオ会議サービスにおける API 連携の事例紹介（2024 年 1 月オンライン開催予定）

2) 第二部会 部会長 山川 広人（公立千歳科学技術大学）

2022 年度活動報告

2022 年 11 月に、UeLA 共通基盤システムの利用事例をテーマとしたミニ勉強会を行いました。勉強会では、共通基盤システムで最も利用のニーズが多い入学前教育の中での活用について、山梨大学・公立千歳科学技術大学・愛知大学の先駆的な取り組みのご紹介をいただき、教材利用の知見を深めました。また 2023 年 3 月の UeLA フォーラムでは、部会ワークショップとして、共通基盤システム内の CBT システムの利用方法についての講習会を実施しました。

2023 年度活動予定

引き続き、共通基盤を用いたシステム・教材の共有とその活用方法の拡大に努めていきます。特に昨今は大学等における LTI（Learning Tools Interoperability）型の教材やツールの共有も注目を浴び始めており、こうした LTI ツールをどのように共通基盤に取り入れるか検討を進めていきます。また、各大学からの新たな教材の共有の実現などにも力をいれ進めていきます。

3) 第三部会 部会長 日永 龍彦（山梨大学）

2022 年末から第 3 部会長を担当することになりました山梨大学の日永龍彦です。第 3 部会の活動内容は、第 1、第 2 部会と連携して、実際に協議会加盟大学が提供し合うシステムや教材等を活用して、教育実践を図り、そのノウハウや知見を協議会内で共有することです。2023 年度は会員校の皆様を対象に生成 AI とポートフォリオに関する利用事例のアンケートを実施しました。総会・フォーラムで結果報告と事例報告を行う予定です。また、あらためて本部会加盟の皆さんの意向をうかがい、それにそった活動を展開したいと思います。

活動報告

2023 年 8 月から 9 月にかけて、本協議会および日本リメディアル教育学会 ICT 活用教育部会を対象として生成 AI とポートフォリオに関する利用事例のアンケートを実施した。また、本アンケートとの連動企画として、8 月 22 日には日本リメディアル教育学会全国大会（会場：江戸川大学）において ICT 活用教育部会企画により同部会及び本部会による合同セッション「Generative AI 時代の到来と ICT 活用教育（AI を活用した教育の設計や実践）」を開催した。

今年度の総会・フォーラムでは上記アンケートの結果概要報告と生成 AI およびポートフォリオの活用事例報告を予定している。

6. 2023 年度フォーラム・総会について

1) UeLA & JADE 合同フォーラム 2023 趣旨

本フォーラムは、学習成果の可視化と教育 DX の推進というテーマで、令和 6 年 2 月 28 日～29 日に、公立千歳科学技術大学（北海道千歳市）で開催を致します。本年は、e ポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアムとの共同開催となります。

本フォーラムでは、「学修者本位の教育」を実現するために必要な教育システムは何かを主テーマに協議会を開催します。学習者自らが、学習目標を自覚して、それに向けて着実に学習を行える仕組みが必要です。このためには、学習者の学習状況を判断して、それに応じた学習支援を図れる教育システムの実現が求められます。昨今の生成系 AI の登場により、AI を活用した学習支援も期待されます。また、学習の成果を蓄積して、それを共有する仕組みとしての e ポートフォリオも重要な教育システムとして期待されます。

本フォーラムでは、基調講演に文部科学省から学修者本位の教育の重要性について講話を頂きます。その上で、金沢工業大学の山本知仁先生に、教育 DX に関連したご講演を頂きます。また本フォーラムは、e ポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアムとの共同開催としています。e ポートフォリオの取組として、大阪公立大学の星野聡孝先生にご講演を頂きます。

また、29 日は、8 大学連携事業の事例報告や日本リメディアル教育学会との共同発表会を開催します。さらに、午後からは、教育システム情報学会北海道支部との共催イベントを予定しています。28 日の夜は、関係者で集まり、情報交換会も予定しています。是非、皆様お集まり頂き、情報交換をして頂ければ幸いです。

公立千歳科学技術大学 小松川浩

2) UeLA & JADE 合同フォーラム 2023 概要

■日時 2024 年 2 月 28 日（水）、29 日（木）

会場	公立千歳科学技術大学大学（現地と Zoom のハイブリッド）	
テーマ	学習成果の可視化と教育の DX について	
内容	基調講演	文部科学省に依頼中
	事例報告 1	山梨大学
	事例報告 2	東京工業大学教育革新センター 畠山久先生 「理工系総合大学における LMS の運用の現状と将来（仮）」
	特別講演 1	大阪公立大学高等教育研究開発センター 星野先生
	特別講演 2	金沢工業大学情報学部 情報工学系 情報工学科 山本知仁先生
	総会	

7. 共通基盤のご案内

1) 共通基盤システム活用のご案内

協議会では、文部科学省の補助事業で行ってございました大学間共同教育連携事業の成果を引き継ぎ、本協議会会員向けサービスとして、基盤教育向けの eラーニング教材の共同利用を開始しました。初年次教育等にむけた汎用的な教材の整備と共有を狙っており、数学(中学・高校・大学初級)、日本語、英語、情報、SPI 対策といった科目を提供しています。

会員大学は、試験利用期間(1年間程度)は無料で、本格利用に際しては年間7万円で、どの科目でも利用可能としています。詳しくは、協議会ホームページ内の特設サイト <https://ucla.jp/system/> をご覧ください。

2) 大学間連携 FD 研修 要請のご案内

協議会では、ICTを活用したFD研修やシステムに関する利用説明に対する、大学間の調整を行っています。

上記の共通基盤を活用した事例の紹介、入学前教育の実践事例、反転学習の取組み、また、Moodleの運用方法等、連携大学が提供可能な情報について、講師派遣の形で、各大学のFD研修などに派遣をいたします。

協議会HPの「視察・講師派遣」ページをご覧ください、ご興味のある大学は、UeLA 共通基盤問い合わせ窓口 kiban@ucla.jp までご連絡ください。

「視察・講師派遣」ページ：<https://ucla.jp/visit/>

8. 入会のご案内

当協議会は、日本におけるeラーニングを先導的に推進している大学が集まり、教育・運用方法に関する知識交流を図りながら、緩やかな大学連携の在り方を検討していくことを目的とし、2009年2月6日に設立をいたしました。

お陰様をもちまして、加盟組織も60機関(2023年10月末現在)となり、今後も当協議会の目的である、eラーニングに関するノウハウ(知識)や、教育方法と密接に連携したFDの取組などを積極的に公開し、eラーニングを活用した効果的な授業展開や新たな教育方法の確立を目指すべく、協議会運営を行って参りたいと考えております。

つきましては、部会の活動紹介ならびに本協議会規約をご覧ください、加盟についてご検討頂けましたら幸いです。

なお、加盟を希望される場合は、加盟申込ページ <https://ucla.jp/membership/application/> のファイル提出フォームより、「大学eラーニング協議会 加盟申込書」をご提出頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

9. 事務局からのご案内

1) 会費納入のお願い

2022年度および2023年度の会費未納の機関は、納入をよろしくお願いたします。

■ 振込口座

銀行名： 三井住友銀行
支店名： 西宮支店（店番 370）
口座番号： 普通 8954271
口座名義： ダイアラーニングキョウカイ カイヨウ コマツカワ ヒロシ
大学eラーニング協議会 会長 小松川 浩

※この度、振込先金融機関口座が変更になりました。

2) 加盟大学イベント案内

加盟大学主催のフォーラム等の案内を当協議会ホームページ上でご案内させていただいております。掲載を希望する大学は事務局までご連絡ください。

協議会加盟大学の皆様が学会表彰を受けられたニュース等もニューズレターに掲載させていただきたいので、情報がございましたら是非お寄せください。

大学eラーニング協議会ニューズレター NO.25

発行：大学eラーニング協議会 事務局

発行日：2023年11月17日

お問合せ：office@ucla.jp